

～ 理事長だより ～ Vol. 13

三島南・北中学校を訪問しました。

今年も昨年同様に、三島市の地域医療講座の中で、がん教育を行う機会をいただき、2025年12月4日、11日の午後、2週にわたり、三島南中学校、三島北中学校の2校を訪問し、がんに関する講演を行いました。



両校とも、体育館に全生徒が集合しており、担当の保健担当の先生より、紹介していただいたのち、三島医師会の先生方とともに約1時間ほど講演を行いました。私の方からは、いのちの大切さ、がんという病気とはどういうものか、がん検診の重要性につき、お話をしました。医師会の先生方からは、地域医療（高齢者の自宅での看取りなど）につき、お話をいただきました。

検診に関しては、まだ、生徒さんたちは、対象年齢ではありませんので、自分の大切なお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんに伝えて欲しいと伝えました。

一通り、講演が終わった後、質問コーナーがあり、南中の生徒さんから、質問攻めに遭いました。どれも純粋な質問で、新鮮に感じました。後日、生徒さんたちの感想を拝見する機会があり、その一部を紹介させていただきます。

「がんは本当に大変なこととは聞いていたけど、あまり聞ける話ではないことをたくさん聞いて、これからの自分の人生でも教科書のようなものになったかなと思いました。アドバンス、ケア、プランニングでは人生会議をすること、初めて知ったことがたくさんあって家族の思い、病気と戦っている本人、支え、治療をしてくれる医療スタッフさんなど周りの人がたくさんいるから頑張れる人もいるので、自分もたくさんの人に勇気と優しさ、その人の意見を尊重し、その後について考えられることができました。」

「自分たちが若いからと油断していても、若くてもなる可能性があるのでこれから少し不安になりながら過ごすと思います。ですが、がんは予防をすることができるので、将来お酒

やタバコを飲んだりするようになった後でもお酒は少量、タバコは吸わないようにして生活していきたいです。今回の講座でがんの怖さについても知ることができたのがとても良かったです。先生方ありがとうございました。」

「男女ともに大腸がん、肺がんに罹患する人が多いことを知り驚きました。がんは生活習慣病の1つとして名高い病で日本人の2人に1人がかかると言われている、というのは知っていましたが改めてグラフや数字として見ると自分の未来が漠然と不安になりました。しかしそのリスクを自分自身の行動によって下げることができます。健康な人生を楽しむために、大切な人の負担を減らすために自分自身の命を大切にしようと思いました。」

「がん予防について一度もまともに考えたことがなかったので、私たちには向き合っていないけど向き合うべきことがたくさんあると感じました。今回のがん予防の話を聞いて、家族とも一度話してみたいと思いました。実際に私の祖父も癌で亡くなっていますが、がんについて私は向き合えていない部分が多かったり、祖父が最後をどのように迎えたのかなどわからず最終的には病院で独りで逝ってしまうことになり、とても悔しい思いをしたことを思い出しました。私は、そのような思いを二度としないようにがんをしっかり向き合ってみようと初めて考えることができた貴重な講話となりました。」

生徒のみなさんはさぞかし眠かったと思いますが、真剣な眼差しで、聞き入ってくれていました。こうした地道な講演活動が大切と強く感じた次第でした。

この、未来ある若者たちが、成長し、よりよく生きる術として、がん検診をうまく利用し、たとえ、がんになったとしても、最小限の負担で治療を終え、苦勞の少ない人生を送れるよう願っています。

NPO 法人 ふじのくに乳がん交流サロン

理事長

西村 誠一郎

